

自分の表したいことを追求し、 つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習

I 図画工作科研究の方向性

1 主題設定の理由

図画工作科では、造形的な見方・考え方を働かせながら主体的に活動に取り組むことで「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育むことを目指しています。これらの資質・能力を高めるには、表現と鑑賞の活動を相互に関連させ、互いを補うことが大切とされています。造形に関わる多様な経験をすることにより、感性が生まれ、様々な場面で色や形などと関わりながら楽しく豊かな生活を創造しようとするにつながります。

これまでの研究では、造形的な視点を児童にもたせるための試しの活動の工夫や、活動中での「見ること」を重視し、鑑賞したことを表現に生かすための工夫をしてきました。その成果として、児童は題材における造形的な視点に気付くことができるようになってきました。

本校の児童は、「図画工作科の学習を楽しんでいる」と感じている児童の割合が98%と多く、学習に意欲的に取り組んでいると言えます。一方で、児童が「表現活動を行う上で困るのはどんな時か」という質問に対して、「何をしようか決められない時」と、「途中まで作ったが自分の思った通りにできない時」という回答が多く見られ、発想や構想と技能の面でつまずきを感じるものが比較的多いことが分かりました。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。図画工作科では、自分の思いや考えを大切に、表したり鑑賞したりすることが大切です。「発想や構想」「技能」「鑑賞」のそれぞれの能力を相互に関連させ、つくりかえながら自分の思いを表すことで、自分にとってのよさや価値を見いだす姿を図画工作における探究する姿と捉えました。

以上のことから、研究主題を「自分の表したいことを追求し、つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習」と設定しました。鑑賞や表現において、一度の表現で安易に完結させるのではなく、必要に応じて更新させていくことが「つくりだす喜び」につながると考えます。自分が見たことや他者等との関わりや、学びの過程を行きつ戻りつする中で、自分にとっての意味や価値を追求し、つくりだす喜びを感じられる授業づくりを目指しました。

2 目指す児童の姿とその具体

自分の表したいことを追求し、つくりだす喜びを味わう児童

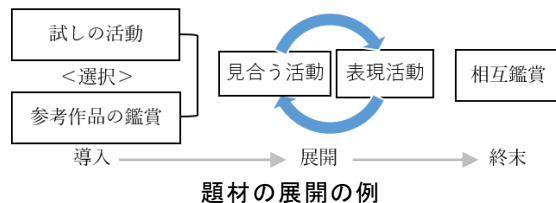
「自分の表したいことを追求し」とは、題材の始めに考えた発想や構想を基につくるだけでなくついたり見たりする中で、自分の表したいことや表し方を変化させたり新しくしたりしていくことです。形や色などから新たなことを思い付いて試す、他者との交流を通して思ったことを基に表現を工夫する、イメージに近付けるために表現方法を工夫するなど、よりよいものを追い求めようとする姿です。

「つくりだす喜びを味わう」とは、感性を働かせながら、作品などを見たり、つくり、つくりかえたりしながら自分にとっての意味や価値のあるものをつくりだすことが喜びや楽しさであり、それを子供自身が実感している姿を表しています。このようにして得られた喜びや楽しさが次の造形活動や生活の中で、試行錯誤しながらも自らつくりだしていこうとする態度につながります。

II 研究内容の具体

1 表したいことを追求させる表現と鑑賞の位置付け

図画工作科において育成を目指す資質・能力は、作りたいものを決めて、その目的に向かってつくるという一方向の流れで活動をするのではなく、表現と鑑賞の活動を行きつ戻りつしながら繰り返す中で育まれていきます。題材において表現と鑑賞の活動をどのように関連させるかを工夫することによって、児童が自分の見方や感じ方を広げ、自分の表したいことを追求し、作りだす喜びを味わうことにつながると考えました。そこで、表現と鑑賞をどのように題材に位置付けていくかを考えました。



2 つくりだす喜びを味わわせる指導の工夫

児童が自分の見方や考え方を広げ、何をどのように表すのかを考えるためには、材料や用具、場などの視点から題材について考えることができるように学習環境を工夫することが必要だと考えました。また、児童の考えに寄り添う、共感的な声掛けが児童の作り出す喜びにつながると考えました。そこで、指導の工夫を考えました。

○学習環境の工夫

- 材 料… ・種類や量を豊富に用意して表現を広げられるようにする
・種類を絞る、限定された材料から表現を深められるようにする
・題材で捉えるべき造形的な視点に気付けるようにする

- 用 具… ・今までの学習で使った用具
・題材における造形的な視点に沿った表現ができる用具
・材料に合わせた用具（接着剤、切断用具等）

- 鑑賞の場… ・グループの活動や活動の段階で分ける等、交流が自然にできる場の工夫
・参考作品や、自分達の試した表現などを自由に鑑賞できる場の工夫

○教師による声掛け

- ・対話を促す声掛け…活動が停滞している児童に、似た活動をしている児童がいることを伝える。
児童の表現を紹介する。
- ・共感的な声掛け …児童が行った行為をそのまま伝える。（「丸くしたんだね。」等）
児童がその時取り組んでいることについて声を掛ける。
自分が感じたことを肯定的に伝える。

3 児童の学びを捉える評価と振り返り

図画工作科においては、出来上がった作品ではなく活動の過程の中で見取ることが重要です。また、児童自身が学びを自覚し、次の学びにつなげることも重要です。そこで、評価について考えました。

○指導と評価の一体化

児童が表したいことをどのように追求しているかを見取り、それを基に児童への声掛けを行いました。また、題材の目標と照らし合わせ、児童の活動が題材における造形的な視点とずれていないのかを見取り、方向の修正をしたり、助言をしたりしました。

○「マイストーリー」の蓄積

自分の表したいことや表し方がどのように変わったのか、自分がこだわっていることはどこなのか、次はどうしたいのかといった、自分の学びの変容を自覚できたり、次の学習への見通しをもったりするための「マイストーリー」を作成し、ポートフォリオとして蓄積しました。

<1年次研究の重点>

- ・題材内における鑑賞と表現の位置付けの工夫
- ・「マイストーリー」の活用による児童の変容の見取り

Ⅲ 研究実践

2年生実践 『たのしく うつして』

実践のテーマ：自分で活動を選択し、創造的に発想や構想をする図画工作の学習

1 研究授業のねらい

本題材は、紙を切って型紙を作って写した形や色の面白さを捉え、そこにかき加えるなど工夫しながら自分のイメージを絵に表す題材です。同じ形をいくつも写すことができることや、複数の色を重ねられるなどのステンシル版の特徴を活かしながら工夫して表すことをねらいとしました。

そこで、教科書の参考作品を用いたり、児童の必要感に応じて鑑賞と試しの活動を選択できるようにしたりして、題材の見通しや意欲をもたせるための導入の工夫をしました。また、型紙を作る、刷る、鑑賞するといったそれぞれの活動に合った場所を設定して自然と互いの活動を見合える環境をつくったり、児童が表し方を工夫できるように複数の用具を用意したりしました。各時間の終わりには、「マイストーリー」を用いて、自分の考えたことや表し方の変化や、友達からの感想によって自分とは違った見方などに気付くことができるようにしました。

2 題材の指導計画

段階	時間	学習内容・学習活動	自分の表したいことを追求する児童の姿
学 ぶ め あ て を も つ	① 本 時	◇題材の見通しをもつ ○参考作品を見て活動内容をつかむ。 ○課題の確認 〔 かた紙をつかってみよう。 〕 ○試しと鑑賞 ・活動を自分で選択し、鑑賞したり試したりして型紙でできる表現を探る。 ○振り返り ・マイストーリーに記入をし、次時の見通しをもつ。	・試したことや鑑賞したことを基に、自分が表したいことを考えている。
確 か な 追 求 ・ 解 決	② ③ ④	◇鑑賞しながらの表現 ○前時の振り返り ○自分のやりたい事の確認 ・型紙を使って、何を表したいか、どんなことができそうか。 ○課題の確認 〔 かた紙をつかって、絵をかこう 〕 ○表現 ・型紙を置く位置を変えたり、刷る色を考えたりする。 ・思いに応じてかき足したり、刷り足したりする。 ・鑑賞をしながら自分の表現を深める。 ・自分や友人の表現を見ながらつくり変える。 ○マイストーリーに記入をし、次時の見通しをもつ。	・表したいことを見つけて、型紙でどのように表すかを考えている。 ・型紙を切りながら表したい形を見付けたり、色を考えたりしている。
ま と め	⑤	○課題の確認 〔 作品から自分が思うよさや面白さを見付けよう。 〕 ○マイストーリーの記入 ・自分の作品について、つくる過程の記録を読んだり、出来上がったものを見たりして感じたことを記入する。 ○相互鑑賞 ・マイストーリーを視点の一つとして、お互いの作品の鑑賞を行う。	・自分が考えたことをどのように表したのかや、表したいことがどのように変わったのかを振り返っている。

3 本時の学習

(1) 本時の目標

型紙を使った表現の特徴や面白さに気付き、どのようなことを表したいかのイメージをもつことができる。

(2) 本時の展開（5時間扱いの1時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 題材の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名「たのしく うつつして」の提示をする。 ・写した経験について、想起する。 ・参考作品を鑑賞する。 今までとどう違うのか、どうやって作ったのかに気付かせる。 「同じ形がたくさんある。」「向きが逆。」「色が変わってる。」「形にかき足してる。」 <p>2 本時の課題の確認</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>かた紙をつかってみよう。</p> </div> <p>3 試しと鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○試しの活動をする ○作品を鑑賞する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動を選択する ・試しの活動や鑑賞を通して、型紙をつかった表現の面白さを探す。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>組み合わせたり重ねたりできる 同じ形がたくさんできる 外側と内側で同じ形ができる 色が変わえられる 向きが変わえられる 自分で型紙を作ってみたい</p> </div> <p>4 ふりかえり（マイストーリー）の記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日発見したことや面白いと思ったこと ・次に使ってみたいもの ・こんどはどうしてみたいか（必須） 	<p>研究との関わり・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの経験を想起する。「ころころぺったん」「スタンプあそび」「野菜はんこ」など ・教科書の参考作品を提示する。 <p>・試しと活動は両方してもかまわないことを確認する。</p> <p>・今回のねらいとは違うこと（スタンプング、用具で直接書く）を始める児童が複数いる場合は、教師が介入する。</p> <p>◇創造的に発想や構想をすることができる指導の工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>研究視点 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞をつなぐための場の設定をする。 ・児童の活動の様子を捉え、実態に合った声掛けを行うことで児童が次にどんなことをするかを発想や構想を広げる。 </div> <p>◇児童の学びを捉える評価と振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>研究視点 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイストーリーに次はどんなことをしたいのか発想したことや構想したことを記述させ、次時への見通しをもたせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【思考・判断・表現】 色々な形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、形を写して感じたことや想像したことから、表したいことを見付けている。（観察、記述）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>かた紙をつかって、楽しく表せそうだね。</p> </div>

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

主体的に試しの活動や鑑賞に取り組み、自分が絵に表したいことや次にやってみたいことを考えている姿。

4 授業の実際

表したいことを追求させる題材の工夫

題材の導入においては、参考作品の鑑賞と試しの活動を行いました。「鑑賞と試しの活動はどちらを行うかを児童が選択できるようにしました。児童の活動は、「鑑賞をしてから試しをする」、「試しに没頭する」、「試しをしてから鑑賞をする」の3種類がありました。鑑賞をしてから活動をした児童は、参考作品に型紙を当てながら型紙の図と地をどのように使えるのかを知り、形を柔らかく見せる方法を試し、「動物が飛ぶ絵ができそう」などと、発想を広げました。試しをしている途中で鑑賞を行った児童は、参考作品を見てから同じ型でも色を変えてまた試したり、「もっといろんな形の型紙がほしい」などと、自分の表したいことを考えたりしました。鑑賞に没頭していた児童は、同じ形をたくさん写したり、ローラーやたんぼなどのことなる道具で写すなどの表し方を変えたりしました。実際に何度も行う中で「中が切り取られているものの方が使いやすい」と、材料の特徴から表し方を考える児童もいました。

鑑賞と試しの活動を自分で選びながら、次はこうしたいと発想を広げる児童が多く見られました。しかし、それぞれが気付いたことや考えたことの交流が十分ではなかったため、「次にやってみたいこと」で道具の使い方についてあげる児童がいる等、表したいことや、やってみたい事の内容に差が出てしまいました。

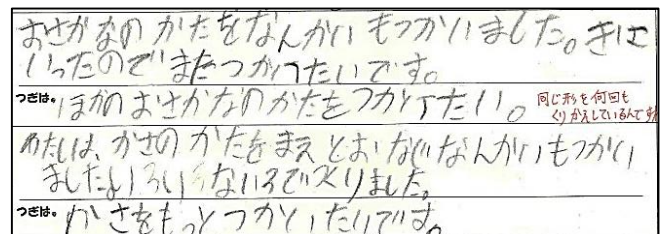


【参考作品を鑑賞する児童の姿】

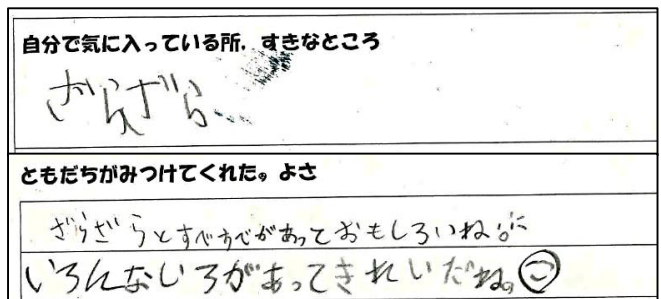
児童の学びを捉える評価と振り返り

本題材では、各時間に本時ではどのような活動をしたのか、次時に向けてやってみたいことなどをマイストーリーに記入する時間を設定しました。マイストーリーを書くことで、自分が表したい事がどのように変わっていったのかや、自分が気に入って使った表し方などを振り返ることができました。一方で、マイストーリーにどのようなことを書けばよいのか戸惑う様子も見られました。「面白かった」といった感想ではなく、自身の表現したことについて記述できるようにしていく必要があります。

また、児童がマイストーリーを記入した後に、教師がコメントを書き、色や形などの視点を与えることで、児童のもつイメージが明確になりました。また、題材の終末には、マイストーリーに自分の作品の気に入っているところを書いてから、相互鑑賞を行いました。つくった人の思いに寄り添った視点で鑑賞を行うことで、自分とは違う見方に気付いたり、自分の好きだと思うところを他の人はどのように捉えるのかを知ったりすることができました。



【マイストーリーの記述】



【マイストーリーを使った相互鑑賞】

IV 1年次研究の成果と課題

図画工作科では、研究テーマを「自分の表したいことを追求し、つくり出す喜びを味わう図画工作科の学習」と設定し、「表したいことを追求させる題材の工夫」「つくり出す喜びを味わわせる指導の工夫」「児童の学びを捉える評価と振り返り」の3点を中心に研究を進めました。

1年次研究では、「題材内における鑑賞と表現の位置付けの工夫」「『マイストーリー』の活用による児童の変容の見取り」を重点として研究を進めました。

1 研究の成果

- 題材の初めの鑑賞で題材において重視する造形的な視点を明確にすることで、題材の見通しをもち、意欲的に活動することができました。
- 導入において鑑賞と試しの活動を児童の必要感に応じて自由に選択できるようにすることで、発想や構想を広げることにつながりました。
- マイストーリーを使うことで、前時の記述を見返したり、次の時間への見通しをもって取り組んだりすることにつながりました。

2 今後の課題

- 複数の活動を行うことで、情報が多くなり、題材における目的を見失ってしまう可能性があります。鑑賞、試しの活動どちらの活動にも目的意識を共通してもたせるようにし、活動の中でそれぞれが感じた特徴などを共有する必要があります。
- マイストーリーにはどのような視点で書くとよいのかを、図画工作科における言葉の使い方として教え、児童の学びを残すことができるようにする必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 平成29年3月
- 小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省 日本文教出版 平成29年7月
- 中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて 文部科学省 平成28年8月
- 初等教育資料No. 932「特集Ⅰ 学習指導要領実施状況調査結果を踏まえた授業改善②」 東洋館出版社 平成27年10月
- 初等教育資料No. 947「特集Ⅰ 各教科等において育成を目指す資質・能力②」 東洋館出版社 平成28年12月
- 初等教育資料No. 954「特集 新しい学習指導要領②」 東洋館出版社 平成29年6月
- 初等教育資料No. 966「特集Ⅰ 新学習指導要領の全面実施に向けて」 東洋館出版社 平成30年4月
- 初等教育資料No. 984「特集Ⅱ 新学習指導要領に向けた指導の在り方[図画工作]」 東洋館出版社 令和元年9月
- 図工・美術がもっと好きになる造形のABC 阿部宏行 日本文教出版 平成27年4月
- 成長する授業—子供と教師をつなぐ図画工作 岡田京子 東洋館出版社 平成28年12月
- なるほど！そうか！学習指導要領 新・図工のABC 阿部宏行 日本文教出版 平成29年7月
- 平成29年度版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 図画工作 阿部宏行 東洋館出版 平成29年10月
- 学びとしての図画工作 題材のABC 阿部宏行 日本文教出版 平成30年12月
- 小学校図工 指導スキル大全 岡田京子編著 明治図書出版 平成31年3月